

# A型インフルエンザウイルス不活性化効果

第19045863

検査機関： 一般財団法人日本食品分析センター  
彩都研究所 微生物研究課

## 作用液のウイルス感染価測定結果： <2,5 (検出せず)

- 検体： ① 複合金属イオン系消臭抗菌剤(遮光)  
② 複合金属イオン系消臭抗菌剤(光照射)

試験 ウィルス	対 象	Log TCID <sub>50</sub> /ml		
		開始時	2時間後	24時間後
インフルエンザウイルス	検体 ①	—	<2.5	<2.5
	検体 ②	—	<2.5	<2.5
	対照(精製水)	6.2	6.5	6.0

TCID50: median tissue culture infectious, 50%組織培養感染量

作用温度: 室温

ウイルス液: 培養液を精製水で10倍に希釈時; <2.5 (検出せず)

# インフルエンザウイルス不活性化効果

産学連携：  
京都産業大学先端科学技術研究所感染症分子研究センター

## 鳥インフル不活化試験結果：

試験サンプル	1月17日	6月5日	6月13日	不活化効果
1倍	$\leq 3.5^*$	0.4	$\leq -0.5$	100万分の1
2倍濃縮	$\leq 0.5$	0.33	NT(検査なし)	100万分の1
50倍希釈	$\leq 0.5$	$\leq 0.5$	NT(検査なし)	100万分の1
50倍濃縮=1倍	NT(検査なし)	$\leq 0.5$	-0.25	100万分の1
陰性対照	6.75	7.0	7.5	残存ウイルスカ価 (log <sub>10</sub> EID <sub>50</sub> /0.2mL)

試験結果によれば、二価鉄系消臭抗菌剤は、有機物の有無によらず、鳥インフルエンザウイルスに対して高い不活化効果を示し、鳥インフルエンザウイルスの防疫等に有効に利用できるものと考えられる。

# ウイルス不活性化効果

検体名: 複合金属系消臭抗菌剤  
検査機関: 日本食品分析センター  
検査報告書: 第17038808001-0101号

## ネコカリシウイルス不活化試験結果:

ネコカリシウスは細胞培養が不可能なノロウイルスの代替ウイルスとして広く利用されている

試験ウイルス	対象	log TCID <sub>50</sub> /mL		
		開始時	2時間後	24時間後
ネコカリシウイルス	検体	—	3.7	<3.5
	対象(精製水)	6.8	6.5	6.3

作用液のウイルス感染価測定結果: <3.5(検出せず)